

老人福祉施設における入所透析患者の栄養状態向上の試み

社会福祉法人照善会 こくら庵

○山下万紀子、桑岡千加子、草刈祥子、津田弥穂子、小松利恵子、船越 哲

【目的】

食事摂取が不十分な高齢透析入所者に対し、透析食を高齢者向けに展開して、食事摂取状態・栄養状態の向上を試みる。

【対象・方法】

当ホーム入所者 29 名のうち食事摂取量が 50%以下であった 7 名において、昼食と夕食の主食・副食を半量に減らして高齢者が好む味噌汁・吸い物・スープを付けた。1800kcal から 1200 kcal とし、1 日の食塩量・水分量の総量は変えなかった。

【結果】

対象患者の平均年齢は 83.7 歳、平均透析歴は 5.3 年であった。食事内容を上記に変更した結果、食事摂取量は 90%に増加し、結果的に摂取熱量は約 200Kcal/日増加、平均血清アルブミン値は、開始前の 3.15g/dl から 3 か月後には 3.4g/dl と有意な上昇を認めた。また、透析間平均体重増加率には変化がなかった。

【考察】

透析食の原則は高カロリー（油もの）・水分制限等であるが、高齢者においては受け入れにくい。今回、食事摂取不良患者の群に対し提供カロリーを抑えて汁物を加えた結果、逆に食事摂取カロリーは増加し、結果的に栄養状態改善に繋がったことより、高齢透析患者の栄養状態保持に有用な手法と思われた。